



# MP RACING

## NAPAC FUJI SUPER TEC 24HOURS RACE

PIRELLI SUPER TAIKYU SERIES 2020 ROUND.1

カテゴリー : ピレリスーパー耐久シリーズ 2020 ST-X クラス  
 エントラント : MP Racing  
 カーナンバー : 9  
 マシン名称 : MP Racing GT-R  
 ドライバー : JOE SHINDO・柴田優作・影山正美  
 松田次生・井上恵一・田中優暉

公式予選 A Dr. : 1' 43.693 (ST-X クラス 2位)  
 公式予選 B Dr. : 1' 40.870 (ST-X クラス 1位)  
 公式予選 (A/B 合算) : 3' 24.563 (ST-X クラス 2位)  
 公式予選 C Dr. : 1' 42.733 (ST-X クラス 3位)  
 公式予選 D Dr. : 1' 42.548 (ST-X クラス 2位)  
 フリー走行 E/F Dr. : 1' 44.798 (ST-X クラス 2位)

大会名称 : ピレリスーパー耐久 2020 第 1 戦  
 NAPAC 富士 SUPER TEC 24 時間レース  
 レース時間 : 24 時間  
 開催地 : 富士スピードウェイ (静岡県)  
 開催日 : 2020.9.4~2020.9.6  
 天候 : 晴れ (9.4) 雨 / 曇り (9.5~9.6)

決勝 : 総合 4 位 / ST-X クラス 4 位  
 (24:01' 39.172 / 516 周)

**NILZZ**  
RACING FACTORY

**nismo**

**MOTUL**

CURIOSITY Ltd.

**PIRELLI**





スーパー耐久 2020 シリーズ開幕戦『NAPAC 富士 SUPER TEC 24 時間レース』が 9 月 4 日から 6 日にかけて開催された。

新型コロナウイルス蔓延による影響でイベントスケジュールが大きく変更され、スーパー耐久も今回の富士が約半年遅れての開催となった。

既に開催されている他カテゴリーでは無観客で行われているシリーズもあるが、今回の富士 24 時間レースは関係者各位の多大なる尽力により、入場規制はあるものの観客を動員してのレースとして開催された。

MP Racing は大躍進の 2019 年シリーズを終え、さらなる競争力を得るべく、今季のマシンを日産 GT-R NISMO GT3 の最新モデルにスイッチした。

シリーズ戦のレギュラードライバーは昨年同様 JOE SHINDO / 柴田優作 / 影山正美が務め、今回の 24 時間レースには松田次生 / 井上恵一 / 田中優暉を起用した。

特に NISMO ワークスドライバーである松田の加入はチームリリース発表直後より大きな話題を生むこととなった。

2020 年シリーズ開幕戦にして最大の難所とも言える過酷な富士 24 時間レース。

強力なドライバーを揃え、最新のマシンを手に入れた MP Racing は強力なライバルが揃う ST-X クラスで悲願の初優勝を目指す。





## 9月4日（金） 公式予選

晴天に恵まれたこの日は決勝スターティンググリッドをかけた公式予選が行われた。

グリッドの決定方式は昨シーズンと変わらずAドライバーとBドライバーの合算タイムにて競われる。12時30分より15分間行われたAドライバー予選。A/Bドライバー予選はST-Xクラスだけの予選アタックとなる。

AドライバーJOEはコースイン後、徐々にペースを上げて計測6周目に自身のベストラップとなる1分43秒693をマーク。これによりJOEはAドライバー予選3位につける。

続いて行われたBドライバー予選。柴田が渾身のアタックで1分40秒870のBドライバー予選トップタイムをマークする。

合算の結果、3分24秒563で2番手グリッドを獲得。MP Racingの予選ベストリザルトを更新した。

C/Dドライバー予選では影山、松田が決勝を見越したフルタンクでのセッティングを主に走行。

E/Fドライバーフリー走行では井上、田中も基準タイムをマークしMP Racingは予選ベストリザルト更新の余韻に浸る間も無く決勝レースに向けての準備を進めていった。



## 9月5日(土)~6日(日) 決勝

グリッド上で若干の降雨はあったものの、コースコンディションは良好な状態。

しかし天気予報ではこの後夕方以降に雨の予報が出ているため、天気を正確に予測する事も非常に重要になってくることは間違いない。

陸上自衛隊の吹奏が華を添えたセレモニーの後、14時59分に24時間の過酷な戦いが幕を開けた。MP Racingのスタートドライバーは松田。順位をキープしたまま2位で1コーナーへ進入する。序盤から快調に周回し、4周目に1分41秒579のこのレースにおけるファステストラップをマーク、その後#777 アストンマーティンを攻略して総合首位へと浮上する。

スタートから約45分を経過した頃よりコース上では雨粒が落ち始める。

松田は45周を終えてピットイン、JOEと交代する。

交代後間もなくコース全体の降雨によりフルコースイエロー (FCY) が導入、一気に雨量が増した事からすぐさまセーフティーカー (SC) の運用に移行された。

ドライタイヤでの走行が不可能なまでにコンディションが悪化したため、SC運用に切り替わりピットレーン入口が開放された直後の52周目に緊急ピットイン。ウェットタイヤに交換した。

その後小雨となりレースが再開。しかし間もなくしてコース上にトラブル車両から外れたタイヤが転がったためFCYが導入、17時49分に2回目のSCが導入される。

今回のSCは10分間にわたり導入され、17時59分に一旦解除されるが、解除後すぐに豪雨のためすぐさまSCが再度導入される。





日没を迎え、レースはナイトセッションに突入しており、競技委員はこのコンディション下での続行は不可能と判断。18時07分に赤旗が提示され、レースは中断となった。

約4時間半の中断を経て、85周目よりレースはSC先導にて再開。激しい雨と夜間走行、そして長時間の中断という非常に厳しい状況ながら自身の担当ステントを走破したJOEは102周目、SC導入中のタイムロスが少なく済む良いタイミングでピットインを行い柴田ヘドライバー交代を行った。

深夜の連続ステントを担当し、順調に走行しているかと思われたが、162周目に『何か壊れた!』と柴田からの無線が飛ぶ。左リアタイヤのバーストであった。柴田は何とか自走でピットに帰還。今回の24Hレースは20時間経過までに10分間のピットストップを行う『メンテナンスタイム』を1回行う必要があるが、MP Racingはメンテナンスタイムをこのトラブル修復にて消化することとした。

タイヤの他、駆動系部品の交換などを行ったことで約1時間近くという長い時間ピットに留まっていたMP Racing GT-Rは首位から17周遅れでコースに復帰した。

影山～松田と繋ぎ、8時を過ぎた頃には徐々にコンディションは回復。コース上の水量が少なくなってきたため、303周目のピットインで松田から田中へと交代をする際にドライタイヤを装着した。ほぼドライコンディションとなったコース上、このコンディションが最後まで続いて欲しいと誰もが願ったであろう。しかし351周目に交代したJOEの担当ステントから雨が降り出す。





またも難しいコンディション下でのドライブとなってしまった JOE は自身最後のスティントを走りぬぎ、A ドライバーの最低運転時間をクリアしたことで 395 周目にピットイン、柴田に交代した。ダブルスティントを終えた柴田から最後は松田へとバトンをつなぎラストスパート。15 時 00 分、総合トップの #888 AMG がチェッカーを受け、24 時間レースが終了。その 1 分 39 秒後、516 周を走破した MP Racing GT-R が開幕戦富士 24 時間レースを総合 /ST-X クラス 4 位、ファステストラップ記録という結果でフィニッシュした。

まずは今回の 24 時間レースを開催されるにあたって、様々な困難にも負けずご尽力いただきましたスーパー耐久機構、富士スピードウェイ、小山町、御殿場市、裾野市、その他関係各位に深く御礼申し上げます。

そしていつも MP Racing を応援いただいているモータースポーツファンの皆様には、長らくお待たせを致しましたが、ようやく開幕の日を迎え、感動と興奮を共に分かち合える日が訪れたことを嬉しく思います。

今回の 24 時間レースは我々 MP Racing は何が何でも勝ちたいという気持ちで臨んでいましたが、総合 /ST-X クラス 4 位という結果で終わることとなりました。

しかしながら今回のレースで MP Racing は昨年以上にスピードも勝負強さも格段に上がっていることを皆様にお見せできたと思います。

10 月 11 日 (日) に行われる第 2 戦菅生大会ではこの雪辱を果たしたいと思いますので、引き続きご支援、ご声援の程、宜しくお願い致します。